



診療所における 特定ケア看護師の役割と課題

米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」近江診療所 尚永直哉

はじめに

はじめまして、滋賀県米原市にある米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」で勤務をしている、特定ケア看護師4期生の尚永直哉と申します。

NDC研修センターを卒業後、自施設での臨床研修を終了し、今年度より特定ケア看護師として活動を始めています。

当施設は、無床診療所・地域包括支援センター・児童発達支援センターの3つの機能をもつ複合施設となっており、高齢者の方だけでなく、吸引や人工呼吸器装着・胃瘻や腸瘻の注入など医療行為が必要なお子さん(医療的ケア児)まで幅広く診療を行っています。

特定ケア看護師を目指した理由

私は、今の近江診療所で働く前、病院の救急で救急看護認定看護師として勤務をしていました。そこではコンビニ受診など年々増える救急患者が大きな問題になっており、地域で安心して在宅療養ができることの重要性を痛感していました。さらに、地域の診療所が閉院するなどの状況もあり、地域で何か貢献できることはないかと考える機会が増えていきました。そんな時に、米原市地域包括医療福祉センターのセンター長である中村泰之先生から、「地域で活躍できる特定ケア看護師の成り手を探している」とお声を掛けていただき、一念発起で病院を辞めて地域医療の世界に飛び込みました。



米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」

診療所での活動の実際

私が特定ケア看護師として診療所で行っている活動についてお話ししていきます。

実際に行っている特定行為については、21区分38行為のなかでは気管カニューレ交換、胃瘻・腸瘻交換、デブリードマン、脱水補正、臨時抗菌薬投与、非侵襲的陽圧換気の設定変更、高カロリー輸液投与量の調節が主な内容となっています。当施設には児童発達支援センターがあることから、気管カニューレ交換、胃瘻や腸瘻交換は高齢者よりも小児の対象が多くなっています。

当診療所では屋外に発熱外来を行うための診療ユニットをもっていることもあり、来院患者のトリアージを行っています。主にCOVID-19感染疑いの方をふるい分けしていますが、外来患者の緊急度判断も行っています。診察や処置中のため医師が即応できない緊急性が高いと判断した患者さんには、初期対応を行い医師の診療に引き継ぐようにしています。また、外来中の往診依頼など医師が即応できない往診に対しても、緊急往診の先行隊として在宅や施設に伺



医療的ケア児の胃瘻交換

い、問診、診察(フィジカルアセスメント、エコー検査等)を行い、検査や治療の提案、高次医療機関への緊急搬送の判断なども行っています。このように緊急度判定が求められる場面も多く、特定ケア看護師研修で学んだ診療技術や知識、救急看護認定看護師としての経験が役にたっています。その他には、当施設では医療的ケア児の受け入れを行っていることもあり、当施設の保育士や、養護学校の教員・看護師への急変時対応訓練を行っています。また、当診療所では特定行為研修生を受け入れており、研修生への指導も行っています。診療所研修に来られる研修医の先生も多くおられ、研修生や研修医の先生から学ぶ機会も多く良い刺激となっています。

診療所で求められる特定ケア看護師とは

特定行為は、診療所内だけでなく往診先で行うことも多くあります。在宅という「生活の場」で行うことや、看護師が小児へ医療行為を行うという点からも、家族との信頼関係が必要不可欠であり、患者・家族と信頼関係を築く高いコミュニケーション能力が求められると感じています。また、診療所には、地域から患者さんについてさまざまな情報が集まってきます。診療所で働く特定ケア看護師には、その中から必要な情報を選択し、アセスメントを行い、必要な治療・サービスなどを提案・調整する総合的な

マネージメント能力が必要と考えています。診療所では、地域生活を営む全ての人が患者さんとなり得ます。それは、小児から高齢者の全世代、難病患者、重症心身障害児、精神障害者なども含まれます。つまり、医療だけでなく、介護・福祉の知識も身に付ける必要があります。

今後の課題

地域における特定ケア看護師の知名度はまだまだ低く、在宅療養の患者・家族だけでなく、連携医療機関や介護保険サービス事業所などへの普及活動が必要と考えています。特定ケア看護師に求められる役割は、それぞれの施設や地域の医療情勢により異なります。地域のニーズを把握し、それに応えられる活動を行うことで特定ケア看護師の普及活動にもつながっていくと考えています。当施設がある地域では、医療的ケア児を診療できる在宅医が少ないため、高齢者だけでなく医療的ケア児への介入が特定ケア看護師に求められる役割の一つです。特定ケア看護師研修では学ぶ機会がほとんどなかった小児科領域ですが、自施設の先生方に指導をいただき、知識・技術を深めていきたいと考えています。

おわりに

研修中より指導医の先生方をはじめたくさんの人たちに支えていただきました。特に、診療所から特定ケア看護師を養成するには人的にも資金的にも負担が大きい中、地域にこそ特定ケア看護師が必要と強い思いで研修に送り出してくださった、当施設の中村センター長ならびに診療所スタッフには深く感謝いたします。

まだまだ未熟で研鑽中ではありますが、地域の中で何ができて、どんな役割が必要とされているのかを常に考えて活動をしていきたいと思っています。